

【フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	秋 田 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	六郷町立六郷中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数 2 2
学級数	3	2	3	1	9	
生徒数	7 5	7 7	8 5	1	2 3 8	

研究の概要

1 研究主題

自ら学びを楽しみ，自ら学びを深める生徒の育成 ～ 評価を生かした個に応じた指導の工夫を通して～
--

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年，全教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間 「確かな学力」は，全教育活動の中で培っていくものととらえているため
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自ら学びを楽しみ，自ら学びを深める生徒の育成 ～ 評価を生かした個に応じた指導の工夫を通して～</p> <p>研究の見通し（仮説） 評価を生かし，個に応じた教材を開発したり，指導形態を工夫したりすることにより，生徒の学習意欲が高まり，自分で思考を深めながら学習を進めていく力を付けることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フロンティア事業についての共通理解 ・ 研究テーマと仮説の設定 ・ 実態把握，実態調査 ・ 年間評価規準表の作成 ・ テーマと仮説に基づく授業実践及び授業研究会 ・ 先進校視察 ・ テーマと仮説の見直し
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 自ら学びを楽しみ，自ら学びを深める生徒の育成 ～ 評価を生かした個に応じた指導の工夫を通して～</p> <p>研究の見通し（仮説） 評価を生かし，個に応じた教材を開発したり，指導形態を工夫したりすることにより，生徒の学習意欲が高まり，自分で思考を深めながら学習を進めていく力を付けることができるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価規準の見直し
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補充的・発展的な学習のための教材開発の継続 ・ 中間公開研究会で研究内容の公表と研究協議 ・ 各教科における「個に応じる指導のための具体策」の立案と，その具現化による授業改善 （各教科における目指す生徒の姿を具体化し，その実現に向けて適切な手立てをとるのに必要だったため，追加） ・ 生徒の自己評価の充実 （研究主題に迫るには，生徒の自己教育力の育成が不可欠だったため，追加）
--	---

平成16年度	<p>テーマ 自ら学びを楽しみ，自ら学びを深める生徒の育成 ～ 評価を生かした個に応じた指導の工夫を通して～</p> <p>研究の見通し（仮説） 評価を生かし，個に応じた教材を開発したり，指導形態を工夫したりすることにより，生徒の学習意欲が高まり，自分で思考を深めながら学習を進めていく力を付けることができるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補充的な学習，発展的教材の質的向上 ・ 各教科における「個に応じる指導のための具体策」の具現化による授業改善の継続 ・ 生徒の自己評価のさらなる充実 ・ 公開研究会で研究内容の公表と研究協議 ・ 研究のまとめ
--------	--

(3) 研究推進体制

【研究組織図】

校内における体制

今年度より，「フロンティア5」と称される，研究推進委員会の下部組織を設けた。教務主任・研究主任・少人数授業実施教科代表による5人である。この5人が分担して「評価研究部」「教材開発部」「指導形態改善部」の主担当となり，全体研修会への提案を行っている。

研究同人組織の立ち上げ

規模の大きな学校ではないため，各教科部員数は少ない。部員数1人という教科も複数ある。そのため，今年度より研究同人を他校から募り，評価規準表の検討，授業研究などを，12校24人の方々と共同で行っている。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果と考えられること

各教科における基礎・基本の定着度の向上

【例】県中学校学習状況調査結果より（平均通過率の県平均との比較）

平成15年度2年生	H14（4教科計）	+3.9ポイント	H15（5教科計）	+7.9ポイント
平成15年度3年生	H14（5教科計）	-3.6ポイント	H15（5教科計）	+1.5ポイント

学習意欲や自己教育力の向上

【例】生徒による学校評価より（質問に「はい」と答えた生徒の割合：3年生）

学習するとき、何をどのように学習すれば学習成果が上がるか、分かってきた

H14 53% H15 66%

自分に適した学習の仕方での学習に取り組めるようになってきた

H14 64% H15 71%

困難に直面しても問題解決に向けて根気強く取り組む姿勢が身に付いてきた

H14 65% H15 82%

学習結果を自分で反省して、次の学習に意欲的に取り組むようにしている

H14 66% H15 74%

教師の変容

評価規準の作成と見直し及び自己評価の推進による、基礎・基本の見直し及びそれぞれの授業で目指す生徒の姿の明確化・具体化

習熟度別少人数学習や地域人材の活用による、個に応じたきめ細かな指導の充実

2. 今後の課題

授業の中で求める「生徒の姿」のさらなる具体化と焦点化

生徒の課題設定能力のさらなる向上

補充的・発展的教材の質的向上

各教科「個に応じる指導のための具体策」のさらなる具現化

習熟度別学習，少人数学習，TT等の，年間指導計画への明確な位置付け

学力把握のための学校としての取組

標準学力検査（入学時）・国及び県の学習状況調査

各教科の基礎・基本の定着度を，客観的なデータをもとに分析するため
単元テスト

単元における基礎・基本の定着度を把握し，次の指導に生かすため，各教科部で作成する。

単元終了後の意識調査

確かな学力を身に付けさせるために講じた個に応じた手立てが，生徒にとってどの程度有用感があったかを把握し，次の指導に生かすため，各教科部で作成する。

学習記録カード・自己評価カードの累積

各教科における生徒のつまづきを把握し，次の指導に生かすため各教科部で作成する。

国語・数学・英語の基礎テスト

各教科の基礎・基本を身につけさせるために必要な基礎的・基本的事項がど

の程度定着しているかを把握し，個に応じた指導に生かすため，年４回，教科部で問題を作成，全校体制で行う

国語は漢字の読み書き，数学は計算，英語は単語のつづりと意味が中心となる。

学習に関する意識調査

研究主題「自ら学びを楽しむ・深める」にかかわる学習意識の高まりを，細部にわたって把握するため，学習活動を細かく分類して提示し，それぞれの学習場面における生徒の意識を具体的に調査する。

年度末，研修部で質問項目を作成，全校体制で行う。

生徒による学校評価

学習全般における意識の高まりを総括し，諸活動との関連を把握するため，教師による学校評価，保護者による学校評価の結果と比較して分析する。

年度末，教務部で質問項目を作成，全校体制で行う

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

中間公開研究会

平成１５年１０月１０日 本校会場

９教科の授業提示と分科会及び全体会

県内小中学校・高等学校より多数参加

平成１５年度 県南地区「確かな学力」向上推進協議会 で実践発表

平成１６年１月２１日 秋田ふるさと村

ワークショップによる提案と質疑応答

県南各小中学校の校長，教頭，教務主任，研究主任より代表者参加
研究同人との共同研究

校内授業研究会・校内研修会等を通して共同研究

HPの開設

現在，加筆・修正・整備中（<http://www.obako.or.jp/rokugot1>）

公開研究会

平成１６年１０月に予定（本校会場）

~~~~~

【新規校・継続校】     15年度からの新規校     14年度からの継続校

【学校規模】             3学級以下                     4～6学級  
                          7～9学級                     10～12学級  
                          13～15学級                 16学級以上

【指導体制】             少人数指導                     T.Tによる指導  
                          その他

【研究教科】             国語             社会             数学             理科  
                          外国語         音楽             美術             技術・家庭  
                          保健体育     その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】             有     無